

来賓挨拶

本郷 浩二（林野庁長官）

ミャンマー連邦共和国天然資源・環境保全省、Nyi Nyi Kyaw 森林局長、FAO からお越しの UN-REDD オフィサー、Malgorzata Buszko-Briggs 様をはじめ、ご登壇の皆さま、ご参加の皆さま、本日の国際セミナーへのご参集に厚く御礼申し上げます。本日の主催者である森林総合研究所におかれては、REDD 研究開発センターの開設 10 周年を迎えられたこととお喜び申し上げます。設立以来、関係機関、民間セクター、途上国政府等とも連携し、REDD+実施に必要な調査研究、能力強化、関係者の連携強化等に積極的に取り組んでこられた。これまでのご尽力に厚く御礼申し上げますとともに、本日は国内外から多くの皆さまのご参加の下、記念すべき第 10 回国際セミナーを開催されることを心からお喜び申し上げます。

気候変動対策や REDD+の現状等については、沢田さん、Dieterle さんから話があったので省かせていただくが、昨年 9 月末に国連事務総長主催で開催された気候行動サミット¹においても、自然に基づく解決策として森林に焦点が当てられた。この点は昨年末、スペインのマドリッドで開催された COP25²における、森林減少の傾向の転換に向けた国連関係機関ハイレベル対話でも取り上げられ、議長国チリがサンチャゴ森林行動のための呼び掛けを行うなど、森林減少・劣化の抑制や持続可能な森林経営等を含む農業・土地利用分野での持続的で網羅的な緩和行動が呼び掛けられた。わが国としても本格的な利用期を迎えた国内森林資源の有効活用と適切な管理や、木材の長期利用、そして REDD+支援による国際的な気候変動対策を通じ、パリ協定の目標達成に貢献したいと考えている。

REDD の構想が国際的に提案されてから 15 年がたち、世界各国でさまざまな取り組みが行われてきた。わが国も関係者の皆さまと共に REDD+の準備や実施に必要なデータ整備、技術的支援に取り組んできた。二国間クレジット制度³を利用した REDD+ガイドラインも 2 カ国と合意するなど、わが国が得意とするテラーメイドの取り組みが少しずつ実を結んできた。一方で、その支援を通じて、REDD+特有の実施の難しさを実感し、また、国際的に民間資金の動員が今後一層必要になるという課題も認識している。

本セミナーでは、REDD+の技術面、施策との調整、市場や認証制度の展望、および民間参画の推進についてご議論を頂くと聞いている。さまざまなセクターの関係者の皆さまのご知見の共有は、いよいよ本格的な実施フェーズを迎えた REDD+の実施を加速するために大変意義深い機会である。林野庁としても、本日の議論の結果を参考に、引き続き REDD+の支援に積極的に参画し、技術的な貢献を果たしていく所存である。

最後に、本日、国会関係の仕事があり、私自身はこのセミナーをお聞きすることができず大変残念だが、ご参加の皆さまにとって実り多きものになること、そして官民連携の下、REDD+がより一層促進されることをお祈り申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

¹ <https://www.un.org/en/climatechange/un-climate-summit-2019.shtml>

² <https://unfccc.int/event/cop-25>

³ <http://gec.jp/jcm/jp/>